

今年はチョコっと♥奮発

福山でバレンタイン商戦 老舗「豆徳」新商品も

天満屋福山店（福山市元町）では、7階大催場に約100ブランドが並ぶ。普段取り扱いのない高額な商品が人気で、1枚3888円（税込み）のフランスの板チョコは入荷後すぐに完売した。担当者は「『自分用に』と買っていくお客様も多い」と話す。新型コロナウイルス感染拡大による巣ごもり需要で、6日に終了したインターネット販売も好調だったという。

尾道産のイチジクをトッコナウイルス感染拡大による巣ごもり需要で、6日に終了したインターネット販売も好調だったという。

●約40種類の量り売りのチョコが並ぶリンツショコラブティック（100ブランドをそろえた天満屋福山店の売り場（いずれも福山市で））

2月14日のバレンタインデーを前に、福山市内でもチョコレート商戦が本格化している。世界の高級ブランドや豆菓子製造の老舗などの新商品があり、選ぶ楽しみが増えている。

（浅田真理）



ピングしたチョコ（10個入り、税込み1490円）など、福山市内のケーキ店が手がけたオリジナル商品もそろえた。友人と訪れた同町の佐藤友愛さん（23）は「プレゼント用、家族用、自分用にいろんなチョコを選べます」と話していた。

JR福山駅の商業施設「さんすて福山」では、イスのチョコレートブランド「リンツ」のショコラブティックがオープンした。約40種類の量り売り（100枚税込み781円）が中心で、担当者は「1粒から買えるので、選ぶ楽しさを気軽に体験して」とアピールしている。

一番人気は、硬めの丸いチョコの中に軟らかなミルクチョコやホワイトチョコなどを詰めた「リンドール」。29種類あり、日本限定の「さくら」はイチゴ粉末を使ったホワイトチョコの中に桜風味のチョコを合っている。

イチゴをチョコでコーティングした豆徳の新商品

1869年創業の老舗で、「豆徳」の屋号で豆菓子を製造販売する福山市胡町の徳永製菓は、豆菓子の技術を使つたアイデア商品で勝負する。同町の豆徳本店で販売している。

フリーズドライしたイチゴをホワイトチョコとストロベリー、チョコ、あまおうパウダーで包んだ「まるっと苺チョコ」（70枚税込み540円）で、豆に衣や粉末を巻き付ける技術を応用した。チョコの甘みでイチゴのさわやかな酸味が際立つといい、広報担当者は「ピンク色の見た目も断面もかわいい商品」と話す。